

取組実績の概要（2 ページ以内）

食物栄養科、保育科からなる本学は、栄養士、製菓衛生師、保育士、幼稚園教諭等、「食と健康」、「教育と児童福祉」の分野で「社会に貢献しうる」専門職の養成に努めてきた。本事業は、本学がこれまで一貫して取り組んできた『社会に貢献しうる』専門職の養成の充実を目指した教育改革の一つとして位置づくものであり、とりわけ本事業開始時の課題であった「卒業時学修成果の学内評価と社会からの評価とのズレ」「学生の学修時間の不足」に向けての改革の取組であった。

本事業は、下表の 4 つの柱から構成される。本事業ではまず、各科 12 におよぶディプロマ・ポリシー（学修成果）を 3 つの要素「**専門的知識 Professional Knowledge**」「**専門的実践力 Professional Performance**」「**総合的人間力 Total Abilities**」で概念化した。さらに、「学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組み」、「学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組み」を開発・整備し、これらをかかして、「学生の主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善」を図った。これらの取組を、3 つの要素の英語表記から一部をとり、短期大学での学びが卒業生の「財産」となることを願って **PROPERTIES** と呼び、これにより「卒業時における質保証」の強化を目指した。

実施にあたっては、学内に「**PROPERTIES 推進室**」、学外に「**学外助言評価委員会**」を新設した。本事業 **PROPERTIES** は、同委員会の協力を得ながら、全教職員の連携協働のもと進められた。なお、以下に記載する取組はすべて補助期間終了後も継続的に実施され学内に定着している。

PROPERTIES 4 つの柱

◆学修成果（ディプロマ・ポリシー）を 3 つの要素で概念化

「専門的知識 Professional Knowledge」「専門的実践力 Professional Performance」
「総合的人間力 Total Abilities」

- 「社会に貢献しうる力」の獲得を「出口を見据えた学修成果の目標」として明確化
- 学外と共有しうる明確な評価視点の設定

◆学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組みづくり

- 「専門的知識外部試験」を全学実施（公的機関による資格試験を活用）
- 「専門的実践力外部試験」を全学実施（卒業時に学外の専門家が個々の学生を直接評価）
- 「総合的人間力」外部評価指標として「ボランティア・パスポート」を開発・活用

◆学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組みづくり

- ディプロマ・サプリメント「学修成果証明書」（学修成果レーダーチャート）を開発

◆主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善

- タブレット活用による「学修支援システム PROPERTIES e-learning」を構築

◆学修成果（ディプロマ・ポリシー）を 3 つの要素で概念化

学修成果、各科 12 の ディプロマ・ポリシー（DP）を、3 つの要素「**専門的知識**」「**専門的実践力**」「**総合的人間力**」で概念化した。これは、単なる資格取得に留まらない「社会に貢献しうる力」の獲得を「出口を見据えた学修成果の目標」として明確化することにつながった。さらにこれら 3 つの要素は「学外と共有しうる明確な評価視点」としても有効に機能している。

◆学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組みづくり

内部評価については、3 つの要素ごとに算出した GPA を指標とし、各授業科目の成績評価基準を全教職員・学生間で共有するなど、成績評価の明確化にも努めている。外部評価については 3 要素ごとに外部評価指標を導入した。

「専門的知識」の外部評価では、公的機関による資格試験を活用した「**専門的知識外部試験**」を全学全コースで実施している。食物栄養科栄養士コースでは全国栄養士養成施設協会「**栄養士実力認定試験**」を、食物栄養科パティシエコースでは厚生労働省「**製菓衛生師国家試験**」を、保育科では全国保育士養成協議会「**保育士試験**」に準拠した試験を「**専門的知識外部試験**」として活用している。これにより学生・教職員ともに、専門的知識に関わる学修成果を一層客観的に把握することが可能となっている。

「専門的実践力」の外部評価では、**学外助言評価委員会**と協働し、全学全コースで「**専門的実践力外部試験**」を実施している。いずれも卒業時に学外の専門家が個々の学生を直接評価するという画期的なものである。パティシエコースでは 2 年間の学修をもとに、全学生がひとり 1 作品オリジナルスイーツを製作し、それらを学外の専門家が直接評価する。栄養士コースでは全学生が一食分の献立作成とその調理を行

い、それらを学外の専門家が直接評価する。保育科では、保育現場で学生が子どもと関わる場面を学外の専門家が直接観察し評価する。これにより、学生・教職員ともに、専門的実践力に関わる学修成果を一層客観的に把握することが可能となっている。

「総合的人間力」の外部評価では、山梨県ボランティア・NPO センター（現在は山梨県社会福祉協議会）と協働で開発した「ボランティア・パスポート」を活用したボランティア活動を評価指標とした。学生たちはボランティア活動を行い「**ボランティア・パスポート**」を通して振り返りをし、学外者からも助言を得ている。これらをいかしてまた次のボランティア活動に取り組むというサイクルが確立している。

学修成果の内部評価と外部評価の結果をもとに、学修支援の方法を見直す等教育改善も行われている。令和元年度は内部評価と外部評価の相関を分析し教育活動を見直すことを通して、本学の課題であった「卒業時学修成果の学内評価と社会からの評価とのズレ」の改善に向けた教育改革が進んでいる。

学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組み

学修成果	内部評価	外部評価
専門的知識 Professional Knowledge	教員による 成績評価 GPA	「 専門的知識外部試験 」を実施（公的機関による資格試験の活用） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 食物栄養科栄養士コース 全国栄養士養成施設協会「栄養士実力認定試験」 ➢ 食物栄養科パティシエコース 厚生労働省「製菓衛生師国家試験」 ➢ 保育科 全国保育士養成協議会「保育士試験」に準拠した試験
専門的実践力 Professional Performance	教員による 成績評価 GPA	「 専門的実践力外部試験 」を実施 （学外助言評価委員会との協働実施、卒業時に学外の専門家が個々の学生を直接評価） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 食物栄養科栄養士コース 専門的実践力外部試験 ➢ 食物栄養科パティシエコース 専門的実践力外部試験 ➢ 保育科 専門的実践力外部試験
総合的人間力 Total Abilities	教員による 成績評価 GPA	「 ボランティア・パスポート 」を活用 （山梨県ボランティア・NPO センターとの協働開発、各科共通）

◆学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組みづくり

学外助言評価委員会の助言を受けながら「**学修成果証明書**（ディプロマ・サプリメント）」を開発した。「学修成果証明書」では「学修成果レーダーチャート」によって「専門的知識」「専門的実践力」「総合的人間力」の内部評価、外部評価が視覚的に示される。その他、授業外学修時間数、卒業レポートの内容、ボランティア活動の内容、特記事項等も合わせて記載され、2年間の学修成果が一目でわかる。これを、平成30年・令和元年度卒業生を対象に自身の就職先に提出できるよう卒業時に配付した。令和元年度は、それぞれの就職先に「学修成果証明書」について意見を求めたところ、「参考になった」との意見が大半（94%）を占めた。「学修成果を目に見える形で社会に提示（学修成果に対する多元的な評価を一目でわかるような形で社会に提示）」する取組が進展している。

◆主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善

「**学修支援システム PROPERTIES e-learning**」構築の一環として、日本データパシフィックの学修支援システム「WebClass」をカスタマイズして導入し、全学生にタブレットを貸与している。WebClassを活用したオンラインでの「専門的知識外部試験」対策、授業の事前事後学修、課題提示、レポート作成・提出、動画撮影・映像配信、反転授業等、主体的な学びの促進や学修時間の増加等を目指した教育活動改善の取組が授業ごとに展開されている。

【必須指標の達成度】

	平成 28 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
学生の授業外学修時間	9.8 時間/週	20 時間/週	10.5 時間/週
事業計画に参画する教員の割合	100%	100%	100%
学生の成績評価(GPA)	2.55	2.80	2.63
進路決定の割合	98.0%	98.0%	99.6%
質保証に関する FD・SD の参加率	100%	100%	100%
卒業生追跡調査の実施率	0%	40.0%	50.6%